



第108回 定時株主総会 招集ご通知

開催日時 2020年6月23日（火曜日）
午前10時 ※受付は午前9時30分より開始

開催場所 東京都品川区西五反田四丁目32番1号
当社本店 9階会議室

開催場所が前年と異なっておりますので、お間違いのないようご注意ください。
また、会場の規模及び新型コロナウイルス感染防止のため、ご入場いただける人数に制限を設けさせていただきます。ご用意できる席数が限られておりますことから、当日ご来場いただきましても、ご入場いただけない可能性がございます。

日産東京販売ホールディングス株式会社

証券コード：8291

目次

第108回定時株主総会招集ご通知	1
株主総会参考書類	
第1号議案 剰余金の処分の件	4
第2号議案 取締役7名選任の件	4
第3号議案 監査役4名選任の件	10
第4号議案 取締役に対する報酬制度の一部改定の件	13

【添付書類】	
事業報告	14
連結計算書類	31
計算書類	34
監査報告書	37

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本年は健康状態に関わらず可能な限りご来場をお控えいただき、書面による議決権行使をお願い申し上げます。

株主総会にご出席される場合におかれましても、株主総会開催時点での流行状況やご自身の体調をご確認のうえ、当日のマスク着用・アルコール消毒・検温などの感染症予防策にご協力いただきますようお願い申し上げます。

例年開催しております株主懇談会は中止とさせていただきます。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

証券コード 8291
2020年6月5日

株 主 各 位

東京都品川区西五反田四丁目32番1号
日産東京販売ホールディングス株式会社
取締役社長 竹 林 彰

第108回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第108回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本年は健康状態に関わらず可能な限りご来場をお控えいただき、書面による議決権行使をお願い申し上げます。株主総会にご出席される場合におかれましても、株主総会開催時点での流行状況やご自身の体調をご確認のうえ、当日のマスク着用・アルコール消毒・検温などの感染症予防策にご協力いただきますようお願い申し上げます。

書面による議決権を行使にあたりましては、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討下さいまして、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2020年6月22日（月曜日）午後6時15分までに到着するようご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2020年6月23日（火曜日）午前10時
※受付は午前9時30分より開始
2. 場 所 東京都品川区西五反田四丁目32番1号
当社本店 9階会議室

<会場に関するご案内>

開催場所が前年と異なっておりますので、末尾の会場ご案内図をご参照いただき、お間違いのないようご注意ください。

また、会場の規模及び新型コロナウイルスの感染防止のため、ご入場いただける人数に制限を設けさせていただきます。ご用意できる席数が限られておりますことから、当日ご来場いただきましても、ご入場いただけない可能性がございます。

3. 目的事項
報告事項

1. 第108期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第108期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役7名選任の件
第3号議案 監査役4名選任の件
第4号議案 取締役に対する報酬制度の一部改定の件

4. 議決権行使に関する事項

議決権行使書用紙による議決権行使の際に、各議案につき賛否の表示をされない場合は、賛成の表示があったものとして取り扱います。

以上

- 〇当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出下さいますようお願い申し上げます。
- 〇招集ご通知に添付すべき書類のうち次の事項につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、以下に記載のインターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、添付書類には記載していません。
- ①連結計算書類の「連結注記表」
 - ②計算書類の「個別注記表」
- 〇株主総会参考書類、事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、以下に記載のインターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

当社ウェブサイト

<https://www.nissan-tokyo-hd.co.jp/ir/meeting.html>

【新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応につきまして】

- ・本株主総会において、当社は前年と同じ会場での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた政府の「緊急事態宣言」の発令により、会場の使用ができない恐れがあるため、当社本店会議室に変更させていただきました。
- ・ご出席いただいた場合、当日はマスク着用・アルコール消毒・検温などの感染症予防策にご協力いただきますようお願い申し上げます。会場入口付近での検温等の措置により、発熱があると認められる方、体調不良と思われる方は、入場をお断りし、お帰りいただく場合がございます。
- ・会場ではソーシャルディスタンスを保つため、会場席数に限りがあり、当日ご入場をお断りする場合がございます。万が一お席をご用意できない場合は、何卒ご容赦いただきますようお願い申し上げます。
- ・例年開催しております株主懇談会は中止とさせていただきます。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。
- ・株主総会の運営スタッフは、マスク着用で対応させていただきますのでご理解いただきますようお願い申し上げます。
- ・その他、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応に追加や内容の変更がある場合には、上記のインターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、株主の皆さまへの利益還元を行うことを経営の最重要課題のひとつと認識し、成長性を確保するための内部留保にも考慮しながら、安定的な配当を行うことを基本方針としております。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が経済に与える影響は大きく、今後の連結業績への影響が不透明な状況にあり、現時点においては、手元資金の流動性を確保することが喫緊の課題でありますことから、誠に遺憾ながら以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

(1) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金4円 総額266,317,304円

(2) 剰余金の配当が効力を生ずる日

2020年6月24日

第2号議案 取締役7名選任の件

本総会終結の時をもって取締役全員（7名）の任期が満了となりますので、改めて取締役7名の選任をお願いするものであります。

その候補者は次ページのとおりであります。

なお、当社では、長期にわたる安定した企業の成長と企業価値向上に取り組んでおり、当社の取締役には、これらを担え、実行できる高い知識・経験・能力を有していることを求めています。取締役候補者指名にあたっては、原則として、社長が提案を行い、取締役会に諮り審議・精査を行い、性別・国籍等の個人属性を問わず、経営に関する多様な視点、職務遂行に必要とされる知識・経験・能力を有した適切な人物を指名いたしております。

決定におきましては、より高い透明性や客観性を持たせるために、社外取締役を委員長とする指名・報酬委員会を設置いたしております。

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況	所有する当社 の株式の数
1	たけ ばやし あきら 竹 林 彰 (1959年10月8日生) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div>	1982年 4月 日産自動車(株) 入社 2003年 4月 (株)日産サティオ島根 代表取締役社長 2006年 4月 日産自動車(株)マーケティング本部 エリアマーケティング部部長 2007年 4月 同営業支援部部長 2010年 4月 同国内M&S業務部部長 2011年 4月 同国内M&S業務部部長 兼 日産セールスウェイ推進部部長 2012年 4月 中央日産(株) 代表取締役社長 2016年 4月 日産自動車(株) 日本営業本部副本部長 2016年 6月 日産自動車(株) 日本営業本部副本部長 兼 当社取締役 2018年 6月 当社 取締役 退任 2019年 4月 同副社長執行役員 2019年 6月 同代表取締役社長 (現在に至る) 同社長執行役員 (現在に至る) (重要な兼職の状況) 日産部品中央販売(株)取締役 ■取締役会への出席状況 (2019年度) 10/10回 (100%)	8,400株
【取締役候補者とする理由】 日産自動車(株)に入社以来、国内営業部門、国内自動車販売会社社長、リージョナルカンパニーである中央日産(株)の社長を務め、2016年からは日産自動車(株)営業本部副本部長として国内自動車販売の旗振り役として活躍されてきました。また、2016年6月より2018年6月まで当社取締役、2019年6月より当社代表取締役を務め、優れたリーダーシップを発揮し、業績向上に努めてまいりました。これらの経験を踏まえ、当社の取締役としての職務を的確かつ効率的に遂行できる知識及び経験を有していることから、引き続き選任をお願いするものであります。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び 重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
2	とがわ たか ひこ 外川 孝彦 (1956年7月8日生) 再任	1980年4月 日産自動車(株) 入社 2007年4月 同生産人事部部長 2011年4月 中央日産(株) 執行役員 2012年4月 同常務執行役員 2013年4月 当社 常務執行役員 (現在に至る) 2014年6月 同常務取締役 (現在に至る) ■取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%)	23,400株
	<p>【取締役候補者とする理由】</p> <p>日産自動車(株)人事部門における経験の後、地域リージョナルカンパニーの役員として、また管理本部の責任者として販売会社をマネジメントしてきました。当社で7年間にわたり経営企画部門、人事部門などを担当し、安定した実績を上げてきており、当社の取締役としての職務執行を的確・効率的に遂行できる知識、経験を有していることから、引き続き選任をお願いするものであります。</p>		
3	いしだ ひろゆき 石田 寛之 (1959年4月21日生) 再任	1982年4月 安田火災海上保険(株) 入社 2002年7月 合併により社名を(株)損害保険ジャパンに変更 2007年4月 同九州中央支店長 2008年4月 同久留米支店長兼佐賀支店長 2010年4月 同首都圏業務部担当部長 2011年4月 同埼玉・千葉業務部長 2012年4月 (株)ジャパン保険サービス 常務執行役員 2014年4月 損保ジャパン日本興亜保険サービス(株) 常務執行役員 (合併による社名変更) 2016年4月 当社 執行役員 (現在に至る) 2016年6月 同取締役 (現在に至る) ■取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%)	9,000株
	<p>【取締役候補者とする理由】</p> <p>損害保険ジャパン(株)において支店長や業務部門の部長として、さらに同社の関係会社において役員として強いリーダーシップのもと組織を牽引し成果を上げてきました。当社においては4年間にわたり、法務・広報・IR部長、総務部長等を委嘱され、業績向上に貢献してきており、当社の取締役としての職務を的確・効率的に遂行できる知識及び経験を有していることから、引き続き選任をお願いするものであります。</p>		

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況	所有する当社 の株式の数
4	よね ざわ りょう いち 米 澤 領 一 (1961年2月6日生) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div>	1984年4月 東京日産自動車販売(株) 入社 2004年4月 (株)東日カーライフマネジメント入社 2006年4月 (株)東日カーライフグループ入社 2011年4月 日産東京販売ホールディングス(株) (社名変更) 2012年4月 同経理部長 (現在に至る) 2015年4月 同執行役員 (現在に至る) 2017年6月 同取締役 (現在に至る) ■取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%)	12,700株
【取締役候補者とする理由】 東京日産自動車販売(株)に入社後、人事部、企画室、経理部等の管理部門における経験を積んできました。現在は、当社の執行役員経理部長としてグループ会社も含めた管理を行い、当社の収益基盤の強化に貢献してまいりました。当社の取締役としての職務を的確・効率的に遂行できる知識及び経験を有していることから、引き続き選任をお願いするものであります。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び 重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
5	<p>まち だ しゅう いち 町 田 修 一 (1972年10月26日生)</p> <p>再任</p>	<p>1996年 4月 日野自動車工業(株) 入社 2002年 3月 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 修士課程 修了 2002年 8月 日産自動車(株) 入社 2012年 4月 大阪カーライフグループ(株) 中計基盤推進部 部長 2015年 4月 同執行役員経営企画部部長 2017年 4月 日産自動車(株) 日本マーケティング本部 チーフマーケティングマネージャーオフィス チーフマーケティングマネージャー 2019年 4月 同日本ネットワーク戦略部部長 (現在に至る) 2019年 6月 当社 取締役 (現在に至る) (重要な兼職の状況) 日産自動車(株) 日本ネットワーク戦略部 部長</p> <p>■取締役会への出席状況 (2019年度) 10/10回 (100%)</p> <p>【取締役候補者とする理由】 現在、日産自動車(株)日本ネットワーク戦略部部長の任についており、同社との情報共有や連携が強化継続されることを期待しております。同氏は大阪カーライフグループ(株)において安定的な経営基盤の構築に貢献され、日産自動車(株)復職後もチーフマーケティングマネージャーとしてセレナe-POWERの発売成功とその後の2018年度ミニバン販売台数No. 1に大きく貢献されました。自動車販売事業及びマーケティングに造詣が深く、当社の更なる成長のために同氏を引き続き取締役として選任をお願いするものであります。</p>	0株
6	<p>ほそ だ し ろう 細 田 次 郎 (1950年10月21日生)</p> <p>再任 社外 独立</p>	<p>1973年 4月 日比谷総合設備(株) 入社 1978年 9月 フジクス(株) 入社 1998年 6月 同常務取締役 2010年 6月 同代表取締役社長 2014年 6月 当社 社外取締役 (現在に至る) 2018年 5月 フジクス(株) 特別顧問</p> <p>■取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%)</p> <p>【社外取締役候補者とする理由】 フジクス(株)の経営者としての豊富な経験と幅広い識見をもとに、当社経営全般の監督と助言・提言を通じて、コーポレートガバナンスの強化、当社の業績向上に貢献していただいております。当社の更なる成長のため、引き続き選任をお願いするものであります。</p>	8,800株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び 重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
7	えん どう けん 遠藤 健 (1954年3月3日生) <input type="checkbox"/> 再任 <input type="checkbox"/> 社外 <input type="checkbox"/> 独立	<p>1976年4月 安田火災海上保険(株) 入社 2002年7月 合併により社名を(株)損害保険ジャパンに変更 2010年6月 同専務執行役員 東京本部長 2011年3月 同退任 2011年6月 (株)ジャパン保険サービス 代表取締役社長 2014年9月 損保ジャパン日本興亜保険サービス(株) 代表取締役社長 (合併による社名変更) 2015年4月 同代表取締役会長 2015年6月 当社 社外取締役 (現在に至る) 2015年12月 S O M P O ケアネクスト(株) 代表取締役社長 2017年6月 S O M P O ケアメッセージ(株) 代表取締役社長 2018年6月 S O M P O ケア(株) (S O M P O ケアメッセージ(株)、S O M P O ケアネクスト(株)の経営統合) 代表取締役社長 (現在に至る)</p> <p>(重要な兼職の状況) S O M P O ケア(株) 代表取締役社長 一般社団法人全国介護付きホーム協会 代表理事 社会保障審議会 専門委員</p> <p>■取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%)</p>	5,000株
<p>【社外取締役候補者とする理由】 損害保険ジャパン(株)及びその関係会社等における企業経営者としての豊富な経験と幅広い識見ならびに自動車販売業界への造詣をもとに、当社経営全般の監督と助言・提言を通じてコーポレートガバナンスの強化、当社の業績向上に貢献していただいております。当社の更なる成長のため、引き続き選任をお願いするものであります。</p>			

- (注) 1. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 細田次郎、遠藤健の両氏は社外取締役候補者であります。また、当社は両氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 細田次郎、遠藤健の両氏の社外取締役就任期間は、本総会終結の時をもってそれぞれ6年、5年となります。
4. 当社は町田修一、細田次郎、遠藤健の3氏との間で、それぞれ会社法第427条第1項の規定により、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする旨の責任限定契約を締結しております。各氏の再任が承認された場合、当社は各氏との間で上記責任限定契約を継続する予定であります。

第3号議案 監査役4名選任の件

本総会終結の時をもって監査役全員（4名）の任期が満了となりますので、改めて監査役4名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

その候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位及び 重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	<p>うえ むら さとし 植村 哲 (1958年12月22日生)</p> <p>新任 社外 独立</p>	<p>1982年4月 日動火災海上保険(株) 入社 2002年4月 同山口支店長 2004年10月 合併により社名を東京海上日動火災保険(株)に変更、関西業務支援部次長 兼 人事総務グループ参事 2006年7月 同神戸中央支店長 2010年7月 同401k事業推進部長 兼 営推企画グループリーダー 2013年7月 同理事 横浜ベイサイド支店長 2015年4月 同執行役員(横浜ベイサイド支店長委嘱) 2018年4月 同常務執行役員 2020年3月 フジコピアン(株)取締役(監査等委員) (現在に至る) (重要な兼職の状況) フジコピアン(株)取締役(監査等委員)</p>	0株
<p>【社外監査役候補者とする理由】 東京海上日動火災保険(株)において、法人営業部門、401k事業推進部長、横浜ベイサイド支店長を歴任し、企業経営においても同社の常務執行役員としての経験を有しております。これらを踏まえた識見に基づき的確な監査を行うことにより、当社グループ経営の一層の適正化に貢献いただくため、新たに選任をお願いするものであります。</p>			
2	<p>こん どう かつ ひこ 近藤 勝彦 (1965年6月24日生)</p> <p>再任 社外 独立</p>	<p>1999年4月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 渡部喬一法律事務所入所 2006年6月 当社 社外監査役(現在に至る)</p> <p>■取締役会への出席状況(2019年度) 14/14回(100%) ■監査役会への出席状況(2019年度) 15/15回(100%)</p>	0株
<p>【社外監査役候補者とする理由】 弁護士として、企業法務をはじめとする豊富な経験を踏まえた法令についての高度な能力・識見に基づき、客観的な立場からの的確な監査を行っており、当社グループ経営の一層の適正化に貢献いただくため、引き続き選任をお願いするものであります。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位及び 重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
3	かわ ぐち まさ あき 川 口 正 明 (1946年1月12日生) <input type="checkbox"/> 再任 <input type="checkbox"/> 社外 <input type="checkbox"/> 独立	1969年4月 日産自動車(株) 入社 1992年6月 (株)ツーカーセラー東京 取締役総務部長 1997年10月 日産デジタルプロセス(株) 常務取締役 2000年9月 デジタルプロセス(株) 常務取締役 2008年6月 同顧問 2015年6月 当社 社外監査役 (現在に至る) <input checked="" type="checkbox"/> 取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%) <input checked="" type="checkbox"/> 監査役会への出席状況 (2019年度) 15/15回 (100%)	8,500株
【社外監査役候補者とする理由】 日産自動車(株)及びデジタルプロセス(株)等において、長年にわたり経理部門、管理部門に携わり担当役員に就任する等豊富な経験があるとともに、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。これらを踏まえた識見に基づき的確な監査を行っており、当社グループ経営の一層の適正化に貢献いただくため、引き続き選任をお願いするものであります。			
4	か とう たかし 加 藤 隆 (1956年11月1日生) <input type="checkbox"/> 再任	1977年4月 東京日産自動車販売(株) 入社 2006年4月 (株)カーネット車楽 取締役 2008年10月 東京日産自動車販売(株) 中古車部長 2011年4月 同執行役員 2014年4月 同取締役 2018年4月 当社 顧問 2018年6月 同監査役 (現在に至る) (重要な兼職の状況) (株)カーセブンディベロップメント 取締役 <input checked="" type="checkbox"/> 取締役会への出席状況 (2019年度) 14/14回 (100%) <input checked="" type="checkbox"/> 監査役会への出席状況 (2019年度) 15/15回 (100%)	15,100株
【監査役候補者とする理由】 東京日産自動車販売(株)において主に中古車部門を担当し、(株)カーネット車楽取締役、東京日産自動車販売(株)執行役員、取締役として経営全般に関与し業績向上に貢献してまいりました。これらを踏まえた識見に基づき的確な監査を行うことにより、当社グループ経営の一層の適正化に貢献いただくため、引き続き選任をお願いするものであります。			

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 植村哲、近藤勝彦及び川口正明の3氏は社外監査役の候補者であります。また、当社は3氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 社外監査役の候補者3氏は、当社の特定関係事業者の業務執行者又は役員ではなく、また、過去5年間に当社の特定関係事業者の業務執行者又は役員であったこともありません。
4. 社外監査役の候補者3氏は、当社又は当社の特定関係事業者から多額の金銭その他の財産を受ける予定はなく、また過去2年間に受けていたこともありません。
5. 社外監査役の候補者3氏は、当社又は当社の特定関係事業者の業務執行者もしくは役員の配偶者、三親等以内の親族その他これに準ずるものではありません。
6. 社外監査役の候補者3氏は、過去2年間に合併、吸収分割、新設分割もしくは事業の譲受けにより当社が権利義務を承継した株式会社において、当該合併の直前に業務執行者であったことはありません。
7. 近藤勝彦、川口正明の両氏の社外監査役就任期間は、本総会終結の時をもってそれぞれ14年、5年となります。
8. 当社は近藤勝彦、川口正明、加藤隆の3氏との間で、それぞれ会社法第427条第1項の規定により、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする旨の責任限定契約を締結しており、植村哲氏が監査役に選任された場合、それぞれ同様の責任限定契約を締結する予定であります。

第4号議案 取締役に対する報酬制度の一部改定の件

当社では、取締役の報酬は、役位ごとの職責に基づき能力を評価し支給する「基本報酬（固定報酬）」と売上・利益等の目標に対する達成度合いに応じて業務執行取締役へ支給する「成果・業績連動報酬（変動報酬）」にて決定しております。また、「成果・業績連動報酬（変動報酬）」の一部は、中長期的な企業価値向上及び株式価値との連動を図るべく、株価と連動させて支給し、強制力のないガイドラインにより、役員持株会に加入することとなっております。

今般、取締役在任中の中長期的な企業価値増大へのインセンティブ機能をより一層向上させることを目的として、強制力のないガイドラインにより役員持株会への加入を前提として支給する報酬制度を、明確な制度として位置付け、退任時の株価に連動する現金報酬であるポイント制の株価連動型報酬制度に変更したいと存じます。

この株価連動型報酬制度は、業務執行取締役に対してその個人の職責における目標に対する達成度に応じて年間で一定のポイントを付与した上で、退任（一定の重大な事由により解任された場合を除きます。）する取締役が保有する累積付与ポイント数に退任日の直近6ヵ月間（退任日の属する月の6ヵ月前の月の退任日に応答する日の翌日から退任日までの期間）の当社株価終値平均を乗じた額を現金で取締役に対し支給することを内容とします。

取締役への年間付与ポイント総数の上限は4万ポイント（1ポイント＝1株相当）とし、当該上限内で付与される年間付与ポイントの各取締役への配分および制度の詳細につきましては、取締役会にご一任いただきたいと存じます。

本制度は株価連動で報酬額が決定されるため、中長期的な企業価値向上へのインセンティブ機能を果たすことができるものであることから、業務執行取締役に対する報酬内容として相当なものと考えております。

なお、第2号議案が原案どおり承認可決されますと、本議案に基づく制度が適用される業務執行取締役の員数は4人となります。

以 上

(添付書類)

事業報告
(2019年4月1日から
2020年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国の経済環境は、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題など、海外経済の減速の影響が見られ、また国内においては、自然災害や消費税増税の影響に加えて、第4四半期より新型コロナウイルスの感染拡大は大きな影響を与え、先行き不透明な状況で推移いたしました。

そのような状況のもと、当連結会計年度における全国の新車販売台数は、前年同期比4.2%減、当社グループのマーケットである東京都内の新車販売台数につきましては同2.4%減となりました。

当社グループの新車販売台数は、上記の国内経済環境の影響等により下半期の販売台数が大きく前年を下回ったことから、28,789台（前年同期比2,959台減、9.3%減）となりました。

この結果、当社グループの当連結会計年度の業績は、売上高は153,147百万円（前連結会計年度比2,654百万円減、1.7%減）、営業利益は4,350百万円（前連結会計年度比371百万円減、7.9%減）、経常利益は4,024百万円（前連結会計年度比267百万円減、6.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、昨年の台風による損害を特別損失に計上したこともあり2,246百万円（前連結会計年度比482百万円減、17.7%減）となりました。

直近5年間の経営成績は次のとおりであります。当連結会計年度は下半期こそ大変苦戦いたしました。年間ではほぼ例年並みの実績となっております。

【連結経営成績】

(単位：百万円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	145,807	149,525	152,023	155,801	153,147
営業利益	4,219	5,029	4,616	4,721	4,350
経常利益	3,602	4,475	4,061	4,292	4,024
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,392	3,990	2,187	2,728	2,246

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① 自動車関連事業

「ニッサン インテリジェント モビリティ」の取り組みから具現化された電動化技術搭載車（電気自動車・e-POWER車）および知能化技術搭載車（プロパイロット・インテリジェント アラウンドビューモニター等）をお客さまにアピールするとともに、「お客さまのニーズに合わせた提案型営業による付加価値販売」に継続して取り組んでまいりました。

これらにより、消費税増税や自然災害に加え、最大需要期である第4四半期において新型コロナウイルス感染拡大の影響があったものの、国の補助金に加え、東京都の補助金給付開始の後押しもあった電気自動車の「リーフ」、モデルチェンジした新型軽自動車「デイズ」およびマイナーチェンジした「新型スカイライン」が前年を上回る販売台数となりました。

一方、販売台数の約4割を占め、絶対台数で貢献度の高い主力車種の「セレナ」および「ノート」が上記影響等により前年比で販売台数が減少したことから、全体の新車販売台数は前年を下回りました。また、新車販売台数の減少に伴い中古車販売も苦戦いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は144,579百万円（前連結会計年度比3,359百万円減、2.3%減）、セグメント利益（営業利益）は4,525百万円（前連結会計年度比385百万円減、7.9%減）となりました。

② 情報システム関連事業

Windows10パソコンなどのハードウェア売上高が伸長するとともに、データセンターなどのマネージドサービス事業が堅調に推移した結果、売上高は8,241百万円（前連結会計年度比715百万円増、9.5%増）となりましたが、販売費および一般管理費が増加したこともあり、セグメント利益（営業利益）は553百万円（前連結会計年度比3百万円減、0.6%減）となりました。

③ その他

その他の事業である不動産事業につきましては、外部顧客への賃貸契約の一部が終了した結果、売上高は326百万円（前連結会計年度比10百万円減、3.2%減）、セグメント利益（営業利益）は131百万円（前連結会計年度比2百万円減、1.9%減）となりました。

なお、上記のセグメント利益（営業利益）の合計から全社費用（主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に係るもの）859百万円を差し引いたものが連結営業利益となっております。

(2) 設備投資等の状況

当連結会計年度中において実施いたしました設備投資等の主なものは、次のとおりであります。

① 当連結会計年度中に完成した主要設備

日産プリンス東京販売(株)	烏山店	土地建物取得
日産プリンス西東京販売(株)	八王子松枝橋店	土地取得
日産プリンス西東京販売(株)	レッドステーション八王子檜原店	展示場拡大
GTNET(株)	車検館柏店／千葉柏（中古車）	移転新設／新設

② 当連結会計年度において継続中の主要設備の新設、拡充 該当事項はありません。

③ 当連結会計年度中に実施した重要な固定資産の売却、撤去、滅失

日産プリンス西東京販売(株)	レッドステーション八王子南店	閉鎖
エヌティオートサービス(株)	カーセブン船橋芝山店	閉鎖

(3) 対処すべき課題

自動車業界におきましては、「100年に一度の大変革期」と言われ、「CASE」（＝コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）に代表される技術が飛躍的に進歩していく一方、少子高齢化などによる需要減少が懸念されるなど、取り巻く環境は大きく変化することが予想されております。

そのような中、当社グループにおきましては、自動車販売を中心とする既存ビジネスの取り組みを強化するとともに、持続的な成長を遂げるため、2019年度から2022年度までの4カ年の中期経営計画「次の東京へ、お客さまと共に。」を策定し、3つの実現目標と課題に取り組むことで、時代の変化に対応しながら、日本一のマーケット“東京”でトップクラスのカーディーラーであり続けることを目指します。なお、最終年度の目標値は、売上高1,750億円、営業利益55億円としております。

[3つの実現目標と課題]

① 既存事業の持続的成長のために・・・ベストプラクティスの更なる徹底

三販社（東京日産自動車販売㈱、日産プリンス東京販売㈱、日産プリンス西東京販売㈱）各社の戦略に加え、ベストプラクティス（好事例）のグループ内への水平展開を継続、発展させることで、お客さま満足度（CS）の向上を図るとともに、業務の平準化を徹底し、一層の生産性の向上をすすめてまいります。

また、日産自動車が進めている電動化、知能化に関する取り組み「ニッサン インテリジェント モビリティ」を中心に、時代の流れとお客さまのニーズを的確にとらえ最適なご提案を行うことで、更なる付加価値販売を徹底し、シェア及び収益の拡大を図ってまいります。

② 時代の変化と顧客ニーズへの対応・・・新たな販売スタイルと新商品の開発

お客さまのカーライフをサポートする窓口である当社グループにおきましては、「CASE」の拡大、発展に対応しながら、お客さまに安心、安全、便利なカーライフを提供するとともに、新たなニーズに対応する商品を開発して収益の拡大を図ってまいります。

③ 未来に向けた成長戦略の育成と実践・・・M&Aによる規模の拡大

自動車関連事業を中心に、グループ会社関連事業も含め、積極的にM&Aに取り組み、シナジーの発揮により持続的なグループ全体の成長を図ってまいります。

この[3つの実現目標と課題]を着実に推進していくために、ダイバーシティを重視し、当社グループ社員が個性を生かして活躍できるような組織風土の醸成にも取り組んでまいります。

[還元方針]

新たな販売スタイル実現への投資やそれに伴うIT関連投資、新店舗の開設及び店舗改装投資など毎期安定的な投資を行ったうえで、配当性向30%を目指してまいります。

中期経営計画の詳細は弊社ホームページをご覧ください。
(<https://www.nissan-tokyo-hd.co.jp/news/190513.pdf>)

(4) 財産及び損益の状況の推移

区 分	第 105 期 2016年度	第 106 期 2017年度	第 107 期 2018年度	第 108 期 (当連結会計年度) 2019年度
売上高 (百万円)	149,525	152,023	155,801	153,147
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,990	2,187	2,728	2,246
1株当たり当期純利益 (円)	60.22	33.00	41.12	33.89
総資産額 (百万円)	84,293	87,494	88,514	85,840
純資産額 (百万円)	37,648	39,983	41,418	42,727
1株当たり純資産額 (円)	551.16	583.66	603.00	619.80

(5) 主要な事業内容 (2020年3月31日現在)

主要な事業
① グループ全体の統括・運営
② 自動車の販売、整備及びこれらに付随する部品、用品類の販売
③ 情報システム関連機器の販売及び導入

(6) 主要な事業所 (2020年3月31日現在)

会社名	本社所在地	主な事業所数
日産東京販売ホールディングス(株)	東京都品川区	1
東京日産自動車販売(株)	東京都品川区	新車販売店舗 34 中古車販売店舗 3
日産プリンス東京販売(株)	東京都品川区	新車販売店舗 49 中古車販売店舗 11
日産プリンス西東京販売(株)	東京都品川区	新車販売店舗 35 中古車販売店舗 7
エヌティオートサービス(株)	東京都大田区	10
G T N E T (株)	大阪府茨木市	14
(株) 車 検 館	東京都八王子市	8
東京日産コンピュータシステム(株)	東京都渋谷区	2

(7) 従業員の状況 (2020年3月31日現在)

① 企業集団の従業員の状況

従業員数	前連結会計年度末比増減
3,042名	81名増

(注) 従業員数は就業人員であります。

② 当社の従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
70名	5名増	46.3歳	19.9年

(注) 従業員数は就業人員であります。

(8) 重要な親会社及び子会社の状況 (2020年3月31日現在)

① 重要な親会社

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	主要な事業内容
東京日産自動車販売(株)	90	100.0	自動車の販売、整備
日産プリンス東京販売(株)	95	100.0	自動車の販売、整備
日産プリンス西東京販売(株)	95	100.0	自動車の販売、整備

③ 特定完全子会社の状況

該当事項はありません。

④ 企業結合の状況

当社の連結子会社は、前記の重要な子会社3社を含め9社であります。

(9) 主要な借入先 (2020年3月31日現在)

借入先	借入額(百万円)
株式会社三井住友銀行	2,160
株式会社八十二銀行	1,000
株式会社三菱UFJ銀行	980
三井住友信託銀行株式会社	860
株式会社みずほ銀行	360
株式会社関西みらい銀行	240

2. 会社の株式に関する事項 (2020年3月31日現在)

- | | |
|--------------|--------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 136,400,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 66,635,063株 |
| (3) 株主数 | 15,971名 |
| (4) 大株主 | |

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日産ネットワークホールディングス株式会社	22,656	34.02
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	6,649	9.98
東京海上日動火災保険株式会社	4,640	6.96
三井住友海上火災保険株式会社	2,620	3.93
TOYO TIRE株式会社	1,470	2.20
株式会社アルファ	1,343	2.01
株式会社太洋商会	1,173	1.76
中央自動車工業株式会社	1,129	1.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,072	1.61
日産東京販売ホールディングス従業員持株会	854	1.27

- (注) 1. 持株比率は自己株式(55,737株)を控除して計算しております。
 2. 損害保険ジャパン日本興亜株式会社は、2020年4月1日付で損害保険ジャパン株式会社に商号変更しております。

3. 会社の新株予約権等に関する事項 (2020年3月31日現在)

該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等 (2020年3月31日現在)

氏名	地位及び担当	重要な兼職の状況
竹林 彰	代表取締役社長	日産部品中央販売(株)取締役
外川 孝彦	常務取締役	—
石田 寛之	取締役	—
米澤 領一	取締役	—
町田 修一	取締役	日産自動車(株)日本ネットワーク戦略部部长
細田 次郎	取締役	フジクス(株) 特別顧問
遠藤 健	取締役	SOMP Oケア(株) 代表取締役社長 一般社団法人全国介護付きホーム協会 代表理事 社会保障審議会 専門委員
伏見 洋之	常勤監査役	能美防災(株)取締役
近藤 勝彦	監査役	弁護士
川口 正明	監査役	—
加藤 隆	監査役	(株)カーセブンディベロップメント 取締役

- (注) 1. 取締役細田次郎及び同遠藤健の両氏は、社外取締役であります。
2. 監査役伏見洋之、同近藤勝彦及び同川口正明の3氏は、社外監査役であります。
3. 監査役川口正明氏は長年に亘り他社の経理部門、管理部門を担当する役員としての豊富な経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 取締役細田次郎、同遠藤健、監査役伏見洋之、同近藤勝彦及び同川口正明の5氏は、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は取締役町田修一氏、同細田次郎氏、同遠藤健氏、監査役伏見洋之氏、同近藤勝彦氏、同川口正明氏、同加藤隆氏との間で、会社法第427条第1項の規定により、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする旨の責任限定契約を締結しております。

(3) 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	支給人員	報酬の額
取 締 役 (うち社外取締役)	7名 (2名)	87百万円 (7百万円)
監 査 役 (うち社外監査役)	4名 (3名)	18百万円 (15百万円)
合 計	11名	105百万円

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、1990年6月28日開催の第78回定時株主総会において、月額26百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
3. 監査役の報酬限度額は、1990年6月28日開催の第78回定時株主総会において、月額3百万円以内と決議いただいております。

取締役会が取締役の報酬を決定するに当たっての方針と手続きは以下のとおりに定めております。

①報酬等の決定に関する基本方針

- 企業価値向上に貢献できる優秀な経営陣を確保できうる報酬制度とする。
- ステークホルダーに対し、説明責任を果たしうる公正性・合理性のある報酬内容とする。
- 経営の監督を担う取締役は、十分な経営監督を行うのにふさわしい報酬内容とする。
- 業務執行を担う執行役員は、業務執行に対し、強い意欲を持つことが出来、成果・貢献度を反映した報酬内容とする。

②役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者

報酬制度については、経営会議に提案し論議した後、指名・報酬委員会の審議を経て、取締役会にて決定しております。

また、個別の報酬額については、報酬制度に基づき能力評価及び目標の達成状況をもとに算定した個別の報酬額の提案を指名・報酬委員会で審議を行い、取締役会は指名・報酬委員会で審議の妥当性を確認のうえ、個別の報酬額の決定を社長に一任する旨の決議を行い、決定しております。

③報酬制度

報酬は、役位ごとの職責に基づき能力を評価し支給する「基本報酬」(固定報酬)と、売上・利益等の目標に対する達成度合いに応じて支給する「成果・業績連動報酬」(変動報酬)にて決定しております。

また、取締役(執行役員兼務者含む)及び監査役の報酬総額は、それぞれ株主総会において決議された範囲内で決定しております。

なお、役員退職慰労金制度につきましては、2004年6月をもって廃止しております。

a. 取締役の報酬制度

業務執行を行わない経営監督を担う取締役は、「基本報酬」のみの支給としております。経営監督機能を十分に果たせる内容とするため、固定額としております。

b. 執行役員の報酬制度

執行役員の報酬は、業務執行に対し、意欲的に業務執行が出来、高い成果や貢献度に繋げられる報酬内容とするため、「基本報酬」及び「成果・業績連動報酬」で構成しております。

また、「成果・業績連動報酬」については、会社業績目標及び個人別業績目標の達成度合いに応じて決定し、その一部は、中長期的な企業価値向上及び株式価値との連動を図るべく、株価と連動させて支給し、役員持株会に加入することになっております。役員持株会の加入口数については強制力のないガイドラインを設けております。

「基本報酬」と「成果・業績連動報酬」の支給比率については、会社業績目標・個人業績目標の目標達成度合いや株価により変動しますが、業績予想数値等の必達目標水準の場合には社長については「基本報酬」1に対して「成果・業績連動報酬」は概ね0.4程度、それ以外の役員については、「基本報酬」1に対して「成果・業績連動報酬」は概ね0.2程度となっております。

「成果・業績連動報酬」に係る会社業績目標は、公表している業績予想数値（連結売上高・連結営業利益等）を必達目標としております。

（注）取締役と執行役員の兼務者は、執行役員の報酬制度を適用しております。

c. 監査役の報酬制度

監査役は、「基本報酬」のみの支給としております。監査機能を十分に果たせる内容とするため、常勤・非常勤を勘案した固定額としております。

(4) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該法人等との関係

取締役細田次郎氏はフジクス(株)の特別顧問を兼務しております。

取締役遠藤健氏はSOMP Oケア(株)の代表取締役社長、一般社団法人全国介護付きホーム協会の代表理事及び社会保障審議会の専門委員を兼務しております。

監査役伏見洋之氏は能美防災(株)の取締役を兼務しております。

なお、当社と社外役員の兼務先各社との間にはいずれも特別な関係はありません。

② 主要取引先等特定関係事業者との関係

該当事項はありません。

③ 当事業年度における主な活動状況

取締役細田次郎氏は、当事業年度に開催された取締役会14回すべてに出席し、経営者としての豊富な経験と幅広い識見をもとに、当社経営の監督とともに、経営全般に対する助言を行っております。

取締役遠藤健氏は、当事業年度に開催された取締役会14回すべてに出席し、経営者としての豊富な経験と幅広い識見をもとに、当社経営の監督とともに、経営全般に対する助言を行っております。

監査役伏見洋之氏は、当事業年度に開催された取締役会14回すべてに出席し、また、当事業年度に開催された監査役会15回すべてに出席し、企業経営者としての豊富な経験と幅広い識見に基づく発言を行っております。

監査役近藤勝彦氏は、当事業年度に開催された取締役会14回すべてに出席し、また、当事業年度に開催された監査役会15回すべてに出席し、弁護士としての豊富な経験と幅広い識見に基づく発言を行っております。

監査役川口正明氏は、当事業年度に開催された取締役会14回すべてに出席し、また、当事業年度に開催された監査役会15回すべてに出席し、経理部門・管理部門を担当する役員としての豊富な経験と幅広い識見に基づく発言を行っております。

5. 会計監査人の状況 (2020年3月31日現在)

(1) 名称 アーク有限責任監査法人

(2) 報酬等の額

	支 払 額
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	43百万円
当社及び当社の子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	59百万円

- (注) 1. 会計監査人の報酬等について監査役会が同意した理由は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、当該会計監査人から提出された新事業年度の「監査計画」の内容について吟味・検討し、「監査日数」と「報酬単価」を精査するとともに、従前の事業年度の職務実行状況や同業種同規模他社の報酬水準も合わせ検討した結果、提案の報酬額は妥当であると判断したためであります。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
3. 当社の子会社である東京日産コンピュータシステム(株)は、当社と同じくアーク有限責任監査法人が会計監査人となっております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の解任又は不再任の決定の方針について、以下のとおり規定いたします。

① 会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断される場合

② 会計監査人の監査品質、品質管理、独立性、総合的能力等の観点から、当社の監査を適切に遂行することが困難と認められる場合

上記に該当する場合、当監査役会は会計監査人を解任又は不再任とすることとし、必要な手続きをとることといたします。

(5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

6. 業務の適正を確保するための体制及びその運用状況

(1) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

内部統制システムに関する基本方針

1. 当社の取締役等及び使用人並びに子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(1) 当社グループの企業理念に基づいて制定された「日産東京販売ホールディングス企業倫理規程」の実践を通して、グループ全体のコンプライアンス体制を構築する。

(2) 内部監査部門として執行部門から独立した「内部監査室」を設置し、当社及び子会社の各部・各拠点に対する定期監査及び臨時監査を実施する。当該監査結果は全て、代表取締役を含む常勤の取締役及び監査役等をメンバーとする内部監査報告会（原則毎月開催）に報告するとともに定期的に取締役会に報告する。

(3) 内部統制システムの構築において重要視されるコンプライアンスの推進に当たって、その中核をなす機関として「コンプライアンス・賞罰委員会」を設置する。コンプライアンス・賞罰委員会は、当社グループにおけるコンプライアンス事案の分析及び賞罰案・

再発防止策等の検討を行うとともに、当社グループ社員が遵守すべきコンプライアンスの根幹となる倫理規程、行動指針に則り、グループ全体への啓蒙教育、水平・垂直展開を推進することでコンプライアンスの浸透、定着を図る。

- (4) グループ社員からの内部通報・提案窓口として、当社内に「N T H イージーボイス」を、外部の第三者機関に「N T H コンプライアンスホットライン」を、それぞれ設置する。
- (5) 反社会的勢力の排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況
当社グループは、「日産東京販売ホールディングス企業倫理規程」において、行動規範、行動基準を示し、反社会的勢力に対しての利益供与はせず、不当な要求を受けた場合、毅然として対応し、一切関係を持たないことを掲げている。また、反社会的勢力との関係を遮断するため、当社の主管部署では外部専門機関と連携し、反社会的勢力に関する情報の収集に努めている。
- (6) 「開示委員会」を設置し、逐次開催し審議を行うことにより当社及び子会社の会社情報を適時・適切に開示する体制を確立する。

2. 当社の取締役等の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社の取締役等の職務執行に係る情報については、その保存媒体に応じて、適切に保存・管理することとし、必要に応じて閲覧が可能な状態を維持する。

3. 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスクの種別ごとに所管部署を定め、適切なリスク管理を行い、経営に重大な影響を与える可能性があるリスクについては取締役会に報告し、必要な事項を決議する。不測の事態が発生した場合には、「グループ危機管理規程」に基づき、当社及び子会社にそれぞれ代表取締役を本部長とする対策本部を設置し、必要に応じて外部アドバイザーチームを組織し、損害の拡大を最小限に止める体制を整える。

4. 当社の取締役等及び子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 当社及び主要な子会社は、取締役会の下、迅速な意思決定及び権限・責任の明確化を図ることを目的として執行役員制度を有する。
- (2) 当社及び子会社は、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催するものとする。当社グループの経営方針及び経営戦略に係る重要事項については事前に当社の執行役員等による経営会議によって審議し、その審議を経て取締役会において決議を行うものとする。

- (3) 当社及び子会社の取締役会の決議に基づく業務執行については、各社の「業務分掌規程」及び「グループ稟議規程」において、責任、執行手続きを明確にし、その実行を確実なものとする。
 - (4) 当社グループは、「グループ稟議規程」を定め、業務執行に係る決裁権限及び子会社から当社への承認・報告事項並びにその手続きを明確にし、その実行を確実なものとする。
 - (5) 当社グループは、事業年度ごとの事業計画を定め、各事業会社の達成すべき目標を明確にするとともに、取締役等は目標達成に向け責任をもって職務を執行する。
5. 子会社の取締役等の職務の執行に関する事項の当社への報告に関する体制
- (1) 当社グループは、原則毎月、当社の常勤の取締役及び監査役等と子会社代表者による代表者会議を行い、各子会社における業務執行状況等の報告を行う。
 - (2) 当社グループの「グループ稟議規程」に定められた事項について、子会社から当社への承認申請・報告を行う。
6. 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 当社の監査役の情報収集、資料整備等を補助するため、監査役室を設置し、監査役補助者を任命することにより、監査業務の効率化を図る。
7. 当社の監査役の職務を補助する使用人の取締役等からの独立性に関する事項
- (1) 監査役補助者の評価は監査役が行い、監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等の改定については、監査役の同意を得た上で決定することとし、取締役等からの独立を確保する。
 - (2) 監査役補助者は業務の執行に係る役職を兼務しない。
8. 当社の監査役が監査役補助者に対する指示の実効性の確保に関する体制
- 監査役補助者の監査役の職務の補助にあたっては、取締役等または組織の上長等の指揮命令は受けないこととする。
9. 当社の取締役等及び使用人が当社の監査役に報告するための体制、並びに子会社の取締役等、監査役及び使用人（またはこれらの者から報告を受けた者）が当社の監査役に報告するための体制その他当社の監査役への報告に関する体制

- (1) 当社の取締役等及び使用人は、当社グループの業務または業績に影響を与える重要な事項について、当社の監査役に適宜報告する。
 - (2) 子会社の取締役等及び使用人は、当社グループの業務または業績に影響を与える重要な事項について、当該子会社の監査役に適宜報告する。この報告を受けた当該子会社の監査役は、当社の監査役にこれを適宜報告する。
 - (3) 当社の監査役はいつでも必要に応じて、当社の取締役等及び使用人並びに子会社の取締役等及び使用人に対して報告を求めることができることとする。
10. 当社の監査役に報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制
- 当社の取締役等及び使用人並びに子会社の取締役等及び使用人が、自らまたは当社の監査役からの求めに応じて当社の監査役に当社グループの業務または業績に影響を与える重要な事項について報告を行ったことにより不利益な取り扱いを受けることはない。ただし、故意または重過失によって事実と反する報告を行った場合はこの限りではない。
11. 当社の監査役の監査費用に係る体制
- 当社の監査役が当社に対して監査の実施に係る費用を請求するときは、当該請求に係る費用が監査役の職務の執行に必要でない認められる場合を除き、これを拒むことができない。
12. その他当社の監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (1) 代表取締役と定期的な意見交換を実施し、また内部監査部門との連携を図り、効果的な監査業務の遂行を図る。
 - (2) 当社の監査役と子会社の監査役の定期的な意見交換を実施し、当社グループの監査業務の実効性を確保する。
 - (3) 監査役からの要請がある場合は、関連各部署は必要な協力を行う。
13. 財務報告の信頼性を確保するための体制
- 金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制に関する体制を構築するために、「経理規程」等の社内規程を整備するとともに、「財務報告に係る内部統制の整備及び運用に係る基本方針」を策定し、この方針に基づき内部統制の構築、評価及び報告に関し適切な運営を図ることとする。

14. IT全般統制

当社は、グループ全体の組織として、「情報セキュリティ委員会」を設置し、「IT全般統制ガイドライン」及びIT関連規程を遵守するための具体的方策の検討、実施計画、モニタリング及び評価等を行う。

※取締役等とは、取締役及び執行役員をいう。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況

当社では、「内部統制システムに関する基本方針」に基づき、当社グループの業務の適正を確保するための体制の整備とその適切な運用に努めております。当連結会計年度における運用状況の概要は以下のとおりであります。

- ① 当社の取締役会は、14回開催し、取締役及び執行役員の職務遂行の適法性・妥当性を監督いたしました。取締役会には、取締役を兼務しない執行役員も出席し、取締役からの求めに応じて詳細な情報提供を行えるようにいたしました。また、その他の主な会議としては、指名・報酬委員会を6回、経営会議を36回、NTHグループ代表者会議を12回、コンプライアンス・賞罰委員会を11回、開示委員会を5回、内部監査報告会を12回、とそれぞれ適切な頻度で開催いたしました。
- ② コンプライアンス・賞罰委員会において、年度の重点取り組み事項を定め、1年間を通じて啓蒙活動等を行いコンプライアンスの推進を実施してまいりました。
- ③ 当社は、子会社の事業計画については当社の取締役会で承認するなど、子会社の事案に関しても、その重要性に応じて、「グループ稟議規程」等に基づき、当社内において、取締役会への付議、稟議決裁、社内報告等を行ってまいりました。
- ④ 内部通報窓口として、当社内に「NTHイージーボイス」を、外部の第三者機関に「NTHコンプライアンスホットライン」を設置しており、一定数の通報を受けました。受理した通報については、速やかに調査を行い、是正が必要な事案が発見されたときは、改善等を実施いたしました。
- ⑤ 自動車販売の際にお客さまから反社会的勢力との関係がない旨の表明・確約書をいただく取り組み、各店舗での暴力団排除宣言ステッカーの掲示、社内研修会の実施、情宣のためのワンポイント・ニュースの発信等を実施して、反社会的勢力との関係遮断の徹底を図ってまいりました。
- ⑥ 業務継続計画を策定し地震を想定した訓練を実施し課題を抽出し対策を講じてまいりました。今後は、風水害や今般の新型コロナウイルスへの対応のノウハウを蓄積しこれを踏まえて、業務継続計画の向上を図ることが課題と認識しております。

- ⑦ 当社は、監査役が当社代表取締役社長、社外取締役、内部監査室、会計監査人との間で意見・情報交換会を実施する機会を確保いたしました。また、当社は、常勤監査役が取締役、執行役員、使用人の職務の遂行状況を監査できるように、主要な稟議書を常勤監査役に回付するとともに、NTHグループ代表者会議、コンプライアンス・賞罰委員会、開示委員会、内部監査報告会等の重要会議に出席する機会を確保し必要な場合は意見を述べられるようにしてまいりました。
- ⑧ 内部監査室は、内部監査計画に基づき、当社及び当社グループ会社各社の業務及び内部統制の監査を実施いたしました。特に、グループの中核を担う自動車販売会社3社については、新車・中古車全店舗の業務監査を実施いたしました。

連結貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	29,259	流動負債	23,862
現金及び預金	8,147	買掛金	12,546
受取手形及び売掛金	7,370	短期借入金	2,000
商品	11,123	1年内返済予定の長期借入金	1,000
仕掛品	218	リース債務	421
貯蔵品	51	未払法人税等	619
その他	2,353	賞与引当金	1,313
貸倒引当金	△4	その他	5,961
固定資産	56,581	固定負債	19,251
有形固定資産	44,563	長期借入金	2,600
建物及び構築物	8,399	リース債務	5,054
機械装置及び運搬具	6,243	繰延税金負債	138
土地	23,304	退職給付に係る負債	10,990
リース資産	5,469	資産除去債務	321
建設仮勘定	38	長期預り金	132
その他	1,107	その他	13
無形固定資産	1,256	負債合計	43,113
のれん	993	(純資産の部)	
その他	262	株主資本	40,095
投資その他の資産	10,760	資本金	13,752
投資有価証券	3,626	資本剰余金	248
繰延税金資産	2,785	利益剰余金	26,226
退職給付に係る資産	3,260	自己株式	△131
その他	1,757	その他の包括利益累計額	922
関係会社投資等損失引当金	△552	<small> </small> その他有価証券評価差額金	1,199
貸倒引当金	△116	<small> </small> 退職給付に係る調整累計額	△277
		非支配株主持分	1,708
		純資産合計	42,727
資産合計	85,840	負債純資産合計	85,840

連結損益計算書

(自 2019年4月1日
至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		153,147
売上原価		118,412
売上総利益		34,735
販売費及び一般管理費		30,384
営業利益		4,350
営業外収益		
受取利息	1	
受取配当金	95	
受取手数料	10	
関係会社投資等損失引当金戻入額	24	
工事負担金収入	30	
雑収入	60	223
営業外費用		
支払利息	129	
支払手数料	277	
車両運搬具評価損	84	
雑損失	57	548
経常利益		4,024
特別損失		
固定資産除売却損	51	
災害による損失	113	165
税金等調整前当期純利益		3,859
法人税、住民税及び事業税	1,083	
法人税等調整額	338	1,422
当期純利益		2,437
非支配株主に帰属する当期純利益		191
親会社株主に帰属する当期純利益		2,246

連結株主資本等変動計算書

(自 2019年4月1日
至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,752	247	24,513	△75	38,437
当期変動額					
剰余金の配当			△532		△532
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,246		2,246
自己株式の取得				△82	△82
自己株式の処分				27	27
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	0	1,713	△55	1,658
当期末残高	13,752	248	26,226	△131	40,095

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,257	341	1,599	1,381	41,418
当期変動額					
剰余金の配当					△532
親会社株主に帰属する 当期純利益					2,246
自己株式の取得					△82
自己株式の処分					27
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動					0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△57	△618	△676	326	△349
当期変動額合計	△57	△618	△676	326	1,308
当期末残高	1,199	△277	922	1,708	42,727

貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	6,959	流動負債	22,536
現金及び預金	5,868	短期借入金	2,000
前払費用	102	1年内返済予定の長期借入金	1,000
短期貸付金	355	リース債務	346
その他	632	未払金	399
固定資産	50,070	未払費用	117
有形固定資産	36,042	未払法人税等	289
建物及び構築物	7,414	預り金	18,307
機械及び装置	44	賞与引当金	16
工具、器具及び備品	200	その他	59
土地	23,677	固定負債	7,976
リース資産	4,704	長期借入金	2,600
建設仮勘定	0	リース債務	4,357
無形固定資産	192	繰延税金負債	594
ソフトウェア	192	資産除去債務	282
投資その他の資産	13,835	長期預り金	130
投資有価証券	2,749	その他	10
関係会社株式	8,673	負債合計	30,512
長期貸付金	2,060	(純資産の部)	
長期前払費用	80	株主資本	25,334
敷金	543	資本金	13,752
差入保証金	574	資本剰余金	241
その他	1	資本準備金	241
関係会社投資等損失引当金	△846	利益剰余金	11,472
		利益準備金	379
		その他利益剰余金	11,092
		圧縮記帳積立金	207
		繰越利益剰余金	10,884
		自己株式	△131
		評価・換算差額等	1,182
		その他有価証券評価差額金	1,182
		純資産合計	26,517
資産合計	57,030	負債純資産合計	57,030

損 益 計 算 書

(自 2019年 4 月 1 日)
(至 2020年 3 月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		7,126
売上原価		4,679
売上総利益		2,446
販売費及び一般管理費		1,258
営業利益		1,188
営業外収益		
受取利息	2	
受取配当金	91	
関係会社投資等損失引当金戻入額	24	
雑収入	12	131
営業外費用		
支払利息	107	
雑損失	17	125
経常利益		1,193
特別損失		
固定資産除売却損	12	12
税引前当期純利益		1,181
法人税、住民税及び事業税	40	
法人税等調整額	△8	31
当期純利益		1,149

株主資本等変動計算書

(自 2019年4月1日)
(至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
				圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	13,752	241	241	326	207	10,321	10,855
当期変動額							
剰余金の配当				53		△585	△532
当期純利益						1,149	1,149
自己株式の取得							
自己株式の処分							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	53	-	563	617
当期末残高	13,752	241	241	379	207	10,884	11,472

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△75	24,773	1,239	1,239	26,013
当期変動額					
剰余金の配当		△532			△532
当期純利益		1,149			1,149
自己株式の取得	△82	△82			△82
自己株式の処分	27	27			27
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△57	△57	△57
当期変動額合計	△55	561	△57	△57	504
当期末残高	△131	25,334	1,182	1,182	26,517

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2020年5月20日

日産東京販売ホールディングス株式会社
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員 公認会計士 徳 永 剛 ㊞
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 村 瀬 征 雄 ㊞
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日産東京販売ホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日産東京販売ホールディングス株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切かどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2020年5月20日

日産東京販売ホールディングス株式会社
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員 公認会計士 徳 永 剛 ㊞
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 村 瀬 征 雄 ㊞
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日産東京販売ホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第108期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
 - ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
 - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
 - ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
 - ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年3月31日までの第108期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査方針、監査計画、職務分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査方針、監査計画、職務分担等に従い、取締役、内部監査部門、その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及び会計監査人アーク有限責任監査法人から当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人アーク有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人アーク有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年5月21日

日産東京販売ホールディングス株式会社 監査役会

常勤監査役 伏見 洋之[㊟]

監査役 近藤 勝彦[㊟]

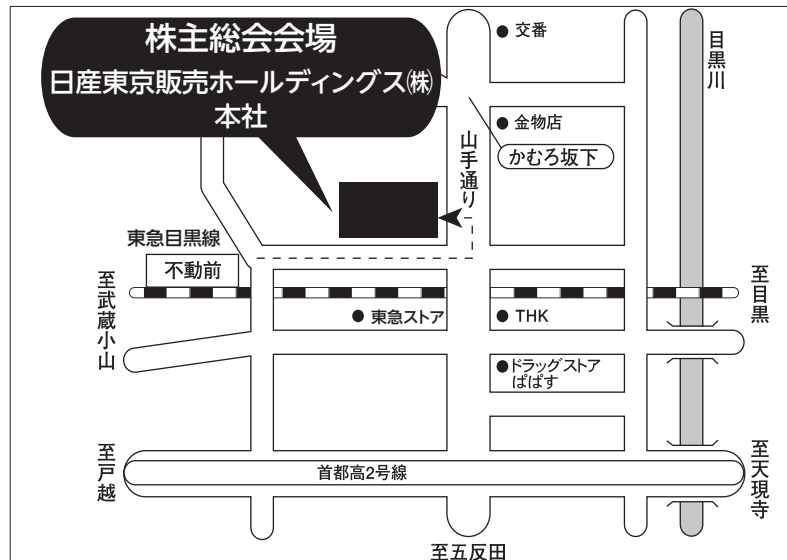
監査役 川口 正明[㊟]

監査役 加藤 隆[㊟]

(注) 監査役伏見洋之、近藤勝彦及び川口正明は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

第108回定時株主総会会場ご案内図



電車／東急目黒線 不動前駅 徒歩2分

※山手通り側のエントランスよりお入りいただき、エレベーターで9階までお上がりください。

(当会場には専用駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。)

— 会 場 —

当社本店 9階会議室

〒141-8623 東京都品川区西五反田四丁目32番1号

※開催場所が前年と異なっておりますので、お間違いのないようご注意下さい。

